

「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能および配信能力に関するガイドライン」 当社適合状況一覧

気象庁ガイドライン概要		当社システム 適合状況説明
1	気象庁が緊急地震速報(予報)を 発表してから端末が報知 または制御を開始するまでに 要する時間	気象庁が緊急地震速報(予報)を発表してから、端末で画面表示を開始するまでに要する時間は1秒以内です。
2	気象庁から端末まで、配信をとぎれ させないような対策	気象庁 - サーバ間は専用線による通信、 サーバ - 端末間は50秒に1度の間隔で接続状態を監視しております。
3	時刻合わせ	端末はNTPサーバによる時刻同期を行い、常時±1秒以内に自動調整します。
4	配信・許可事業者によるサポート	配信に異常が生じた場合は画面上にポップアップを表示します。 端末故障時の修理はセンドバック対応とし、復旧までは端末の送付・交換に必要な期間のみとなります。
5	耐震固定等地震の揺れへの対策	端末は耐震固定具等を利用して固定するようにご案内しております。
6	無停電化	端末を無停電電源装置に接続することで対応可能です。
7	端末の冗長化	要望により、常時2系統動作やコールドスタンバイ等の冗長化することが可能です。
8	回線 常時接続できる回線 専用線等信頼性の高い回線	衛星回線による配信体制を採用しており、地上回線に比べて地震による回線断のリスクが低くなっています。
9	予想した猶予時間	猶予時間の設定機能はありません。主要動到達済でも画面表示します。予想した猶予時間は画面表示(カウントダウン)します。
10	予想した震度	緊急地震速報(予報)の画面表示を開始する震度の設定が可能です(震度3、4、5弱以上の3段階から選択)。
11	精度情報(凡例) 100ガル:100ガル超え緊急地震速報 1点:1観測点のデータに基づく 緊急地震速報(業) 複数点:複数観測点のデータに 基づく緊急地震速報(業)	100ガル超えかどうかの判定はせず、緊急地震速報(予報)のマグニチュードを用いて端末上で演算を行い、 その結果を基に表示します。

12	深発地震についての 緊急地震速報(業)	震源の深さが150kmより深いものについては震度予想を行わず、主要動の到達状況のみ画面表示します。
13	放送・報知内容	予想した震度と猶予時間は画面表示で報知します。 端末から音(予想震度3または4の場合、予想震度5弱以上の場合で異なる)を出力します。 外部出力機能も備え、放送等への連動が可能です。
14	緊急地震速報(業)で 制御、放送、報知を行った後に 同一地震または別の地震について 提供される緊急地震速報(業)	続報を受信した場合は画面表示は常に新しい内容に更新されます。予想される震度が小さくなる場合でも報知を継続します。 外部出力機能の出力基準を満たした場合、手動による解除が必要となり、その間は常時出力が維持されます。 なお、要望により自動解除機能を追加することも可能です。
15	キャンセル報	キャンセル報を受信した場合、画面上にポップアップを表示し、その旨を通知します。 外部出力機能の出力基準を満たしていた場合は、手動による解除が必要となります。
16	試験	テスト報を受信しても画面表示は行いません。
17	訓練	訓練報を受信しても画面表示は行いませんが、訓練機能により、訓練を実施することが可能です。
18	配信・許可事業者への連絡	端末に関する連絡や利用に関するサポート全般は、当社が行っております。